

泉佐野泉南医師会圏域

**医療と介護・多職種連携
に関するアンケート**

調査結果

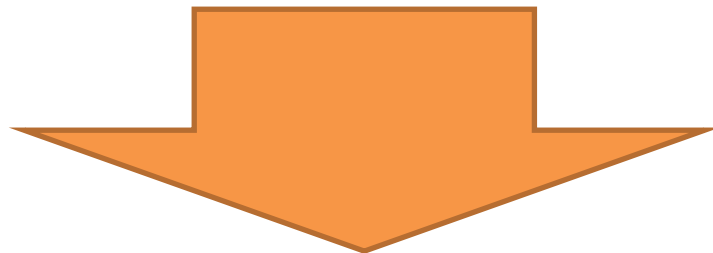
【薬剤師】

《在宅医療円滑化ネットワーク事業》

泉佐野泉南医師会

1. アンケート調査の目的

- 高齢化の進展に伴い医療と介護の双方を必要とするシームレスな医療提供体制の整備が必要
- 「共通認識」を持つことは、この泉州地域でいつまでも暮らし続けたいと願う高齢者にとってきわめて重要
- 高齢者一人ひとりのライフステージにあった「地域包括ケア体制」の構築の実現に向けた課題抽出



関連する職種にアンケート調査を実施

2. アンケート調査の概要

1) 実施状況

○実施期間	平成25年1月7日～1月19日
○調査基準日	平成25年1月1日
○調査方法	郵送による配布・回収及び無記名調査
○調査対象者	泉佐野泉南医師会圏域の ・医師(診療所医師) ・歯科医師 ・薬剤師 ・病院地域医療連携室(MSW) ・介護支援専門員(ケアマネジャー) ・訪問看護ステーション ・地域包括支援センター ・行政

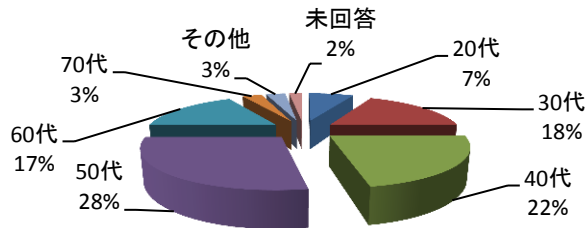
3.アンケート回収状況と回収率

	有効回収数 / 配布数	回収率
医師(診療所医師)	105 / 158	66.45%
歯科医師	61 / 113	53.98%
薬剤師	60 / 97	61.86%
病院地域連携室	17 / 27	62.96%
ケアマネジャー	100 / 123	81.30%
訪問看護ステーション	12 / 19	63.15%
地域包括支援センター	4 / 4	100%
行政	7 / 7	100%
合計	366 / 548	66.79%

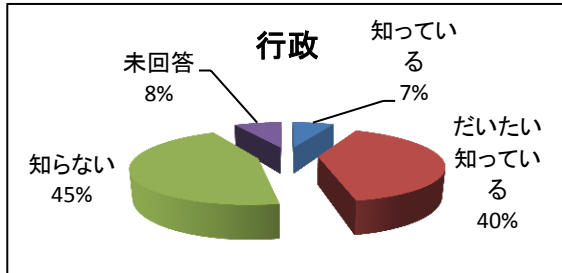
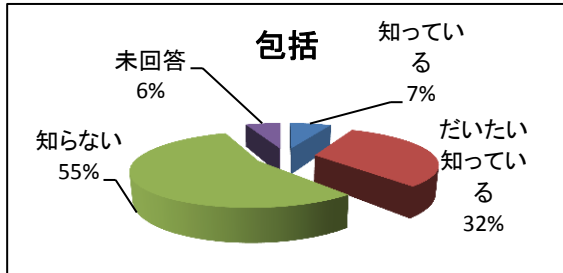
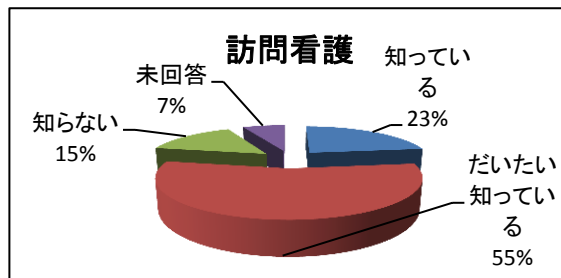
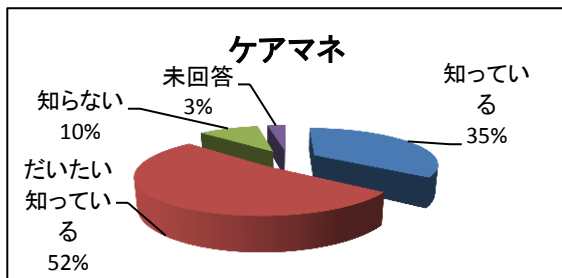
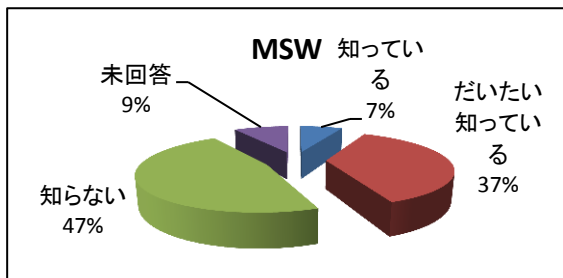
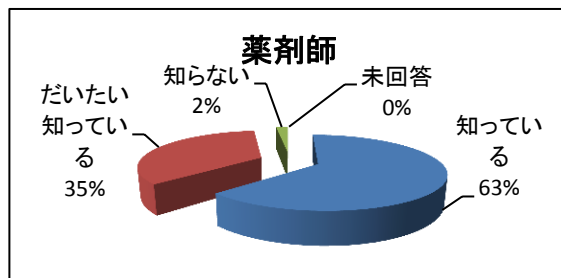
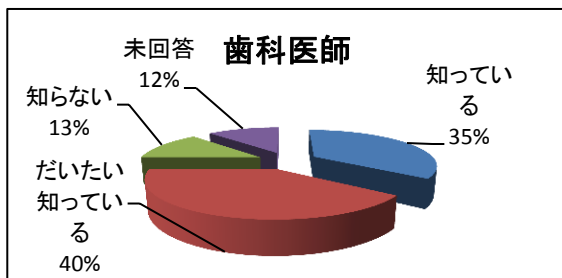
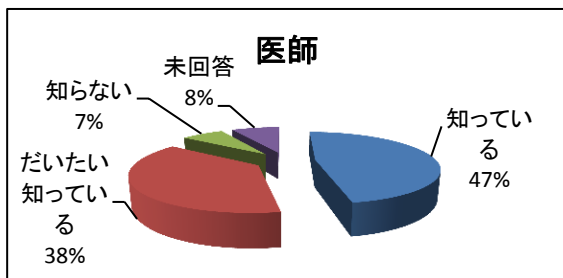
アンケート結果

1) あなたの年齢をお聞かせください。

年齢については、50代(28%)、40代(22%)、30代(18%)、60代(17%)となっている

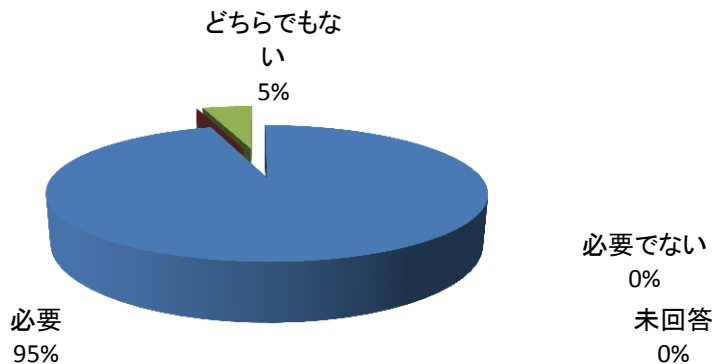


2) 在宅医療・介護の連携において、他職種の役割を知っていますか。



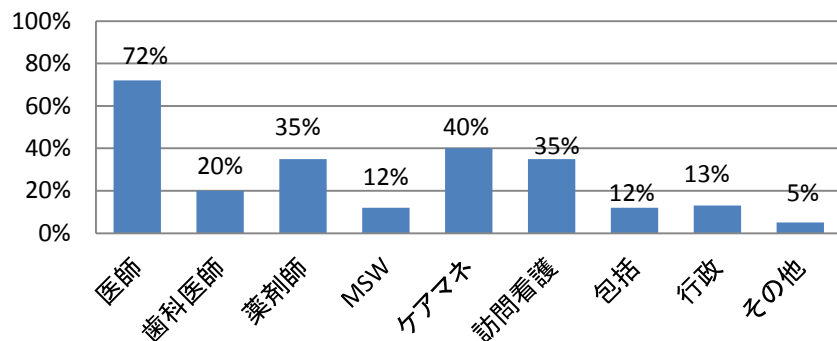
連携における他職種の役割については、MSW、包括、行政以外の職種の役割について、「知っている」「だいたい知っている」と薬剤師はと答えている

3) 在宅医療・介護の業務をする上で多職種との連携は必要と思いますか。



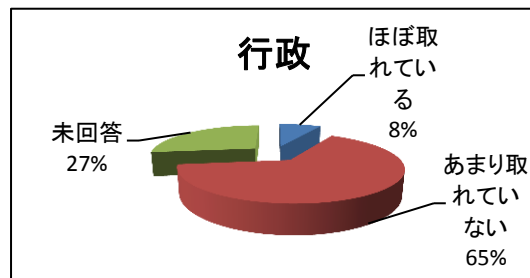
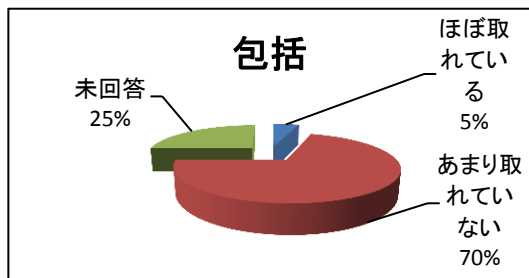
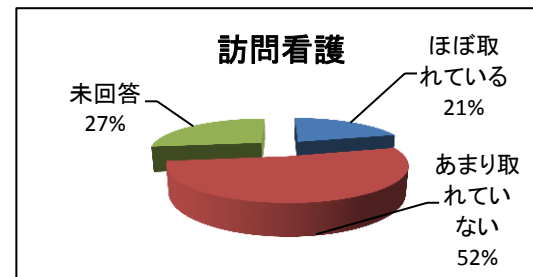
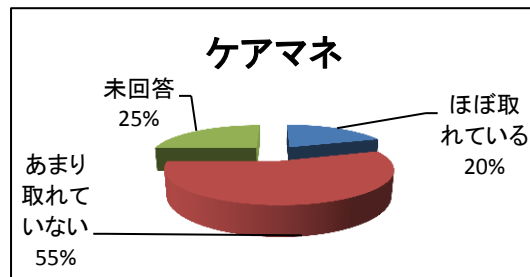
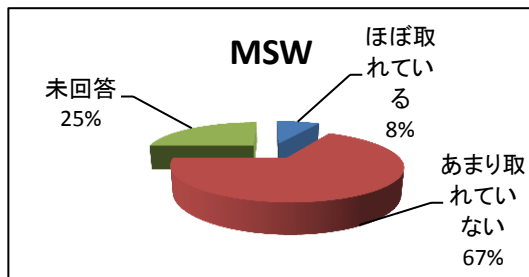
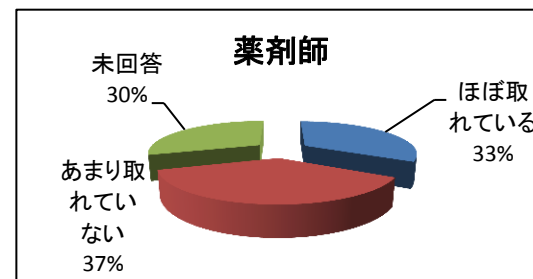
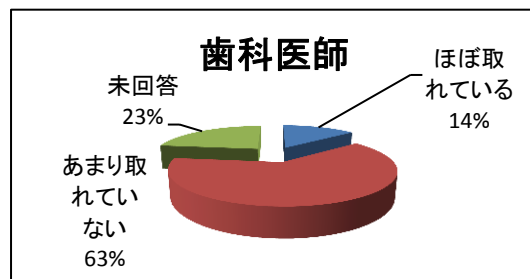
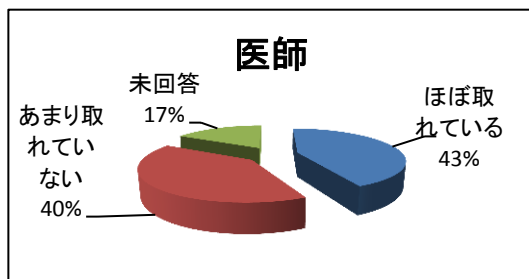
95%の薬剤師が「必要」と答えており、「どちらでもない」と答えた薬剤師は、5%であった。また、「必要でない」とした薬剤師は、1人もなかった。

4) どのような職種と連携していますか。



医師と連携している薬剤師が72%と最も多く、次いで、ケアマネ(40%)、訪問看護、薬剤師(ともに35%)となっており、ニーズによるものと思われるが、歯科医師、MSWとの連携が進んでいない。また、包括、行政との連携も進んでいない。

5) 多職種及び他機関との連携においてお聞かせください。



多職種及び他機関との連携においては、医師、薬剤師とは、30%以上の薬剤師が「ほぼ取れている」としているが、他の職種については、半数以上の薬剤師が「あまりとれていない」との結果であった。

《阻害要因》

診療所医師

- ・在宅件数がほとんどないため(処方箋内で医師の在宅患者訪問薬剤の指示がほとんどないため)。
- ・現在は2名の患者様に薬を配達する程度で、医師とのコミュニケーションなし。
- ・会合出席があっても挨拶する事もなく、接点がない。
- ・医師が多忙につき。
- ・在宅医療の本来の役割をお互いに理解していない。

歯科医師

- ・連携した経験がない。
- ・連携する(連絡、相談)ことがないため。
- ・まだ必要としていない。

薬剤師

- ・在宅への服薬管理指導のサービスがまだまだ認知されていない様に思います。
- ・連携する(連絡、相談)ことがないため。
- ・薬剤師間の情報がなく、又は、各薬局の温度差がある。

病院地域連携室(メディカルソーシャルワーカー)

- ・仕事の内容が明瞭化されておられませんので連携のとり方が分かりません。
- ・まだ必要としていない。
- ・連携室の役割がわからない。
- ・そのような機関がある事を知らなかったし、連絡先を知らない。

介護支援専門員(ケアマネジャー)

- ・連絡がなかったりすることが多い。Faxしても一方通行。
- ・現状連携の必要性を感じた事がない。
- ・ケアマネジャーも自分担当の患者以外を気にしていない。
- ・医師の方にばかり向いていて連携をとろうという気持ちがみえない、又、とろうと思えない。

訪問看護ステーション(看護師)

- ・往診同行をさせて頂く意志は伝えているが、実際に同行の機会がないため。
- ・看護師も自分担当以外の患者に興味を示さない。

地域包括支援センター

- ・連携する(連絡、相談)ことがないため。
- ・名前も役割もよく知らない。
- ・支援センターのメンバーと顔見知りでない。
- ・情報交換の場所がない。

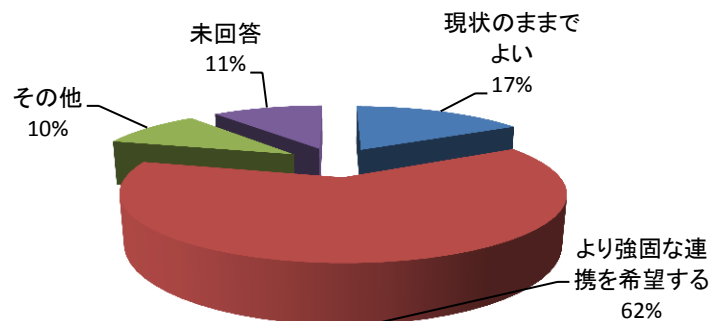
行政

- ・窓口を訪問したことがない。
- ・情報交換の機会がない。

その他

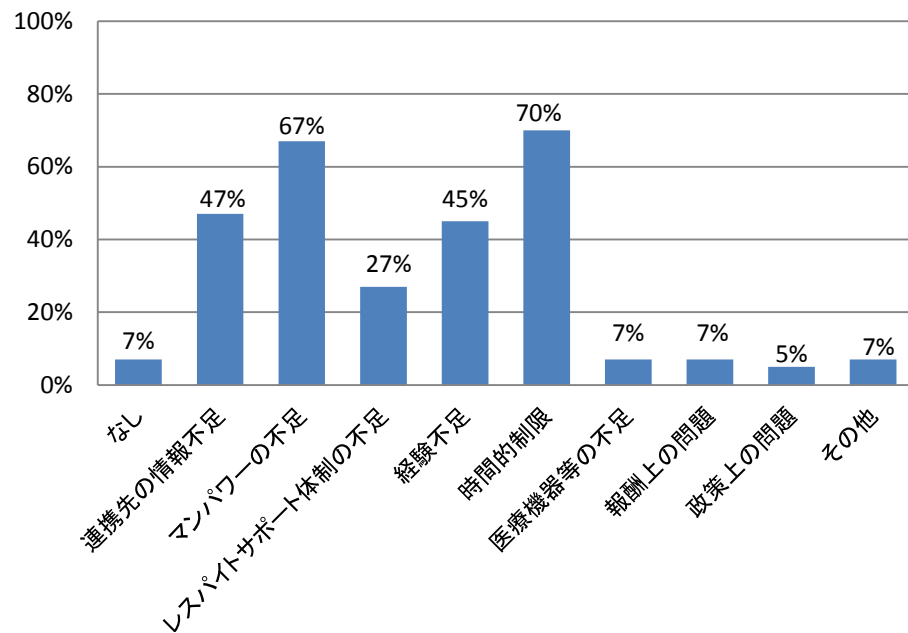
- ・市民の感心がうすい(実際に介護している人は他人の助けを求めている)。
- ・医師を始めとする他の職種との連携が(患者数が少ないので)とれていない。

6) 今後の連携についてお聞かせください。



今後の連携については「現状のままでよい」としている薬剤師は17%で、「より強固な連携を希望する」とした薬剤師は62%であった。

7) 在宅ケア（医療・介護）について、できにくい阻害要因について、お聞かせください。



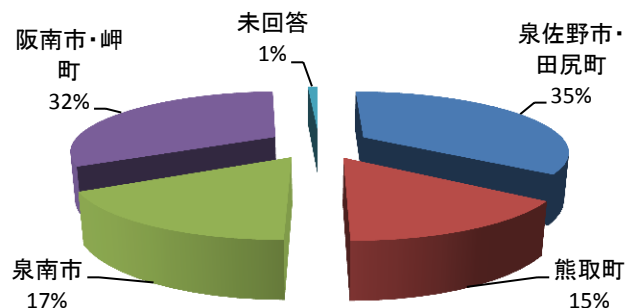
在宅ケア（医療・介護）のできにくい阻害要因については、「時間的制限」が70%、「マンパワーの不足」が67%、「連絡先の情報不足」が47%となっている。

8) 在宅医療ケアに係る連携を構築する上での問題点や課題などをお聞かせください。

【抜粋】

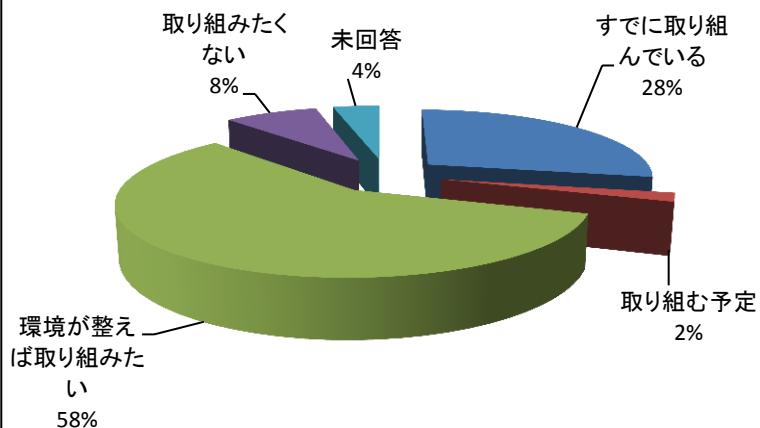
- ・職種間同士において、お互いの仕事内容や立場について理解がしっかりと出来ていない。
- ・時間的な余裕と人員の不足でなかなか在宅医療に取組めない。
- ・医療、介護の連絡、連携において介護側は医師に対してのみ情報提供をしていて、他の職種に対するリスペクトが全くみられない。こちらも、そういった態度なら連携がとりづらい。
- ・在宅医療のニーズはあるが、それを掘りおこせていない。
- ・やはり時間的なもので1人～2人薬剤師の所では少し時間がないように思われます。
- ・各職種との連携は、医療とケアを行うことで重要であると理解しておりますが、職種間(薬剤師)での重要な関係を構築しないと大きな輪ができず、在宅医療への移行は困難だと思います。
- ・在宅医療に取り組みたいがどうしていいのかわからない。目前にひかえた超高齢者社会にむけ、医師会の先生、行政の強いリーダーシップをお願いしたい。
- ・医療を中心として介護、在宅医療ケアを構築する上で、サービス事業者の質の向上が求められると考えます。利用者が安心してサービスを受ける事ができる様、教育が必要だと思います。
- ・在宅医療は非常に負担のかかる仕事です。チーム全体、過酷な日常業務の中で心に余裕を持って、在宅医療に望める方は少ないと思います。医療人、皆で在宅を行うことは難しいかと思えます。在宅専門に行うチームをつくるべきではないでしょうか。
- ・薬局の立場からすると薬局間での全体的な連携(一部では行われていると思いますが)不足が問題点だと思う。また、医療機関と薬局との連携において情報不足が問題点だと思う。

9) あなたの開業または所属している医療機関若しくは事業所の所在地を教えてください。



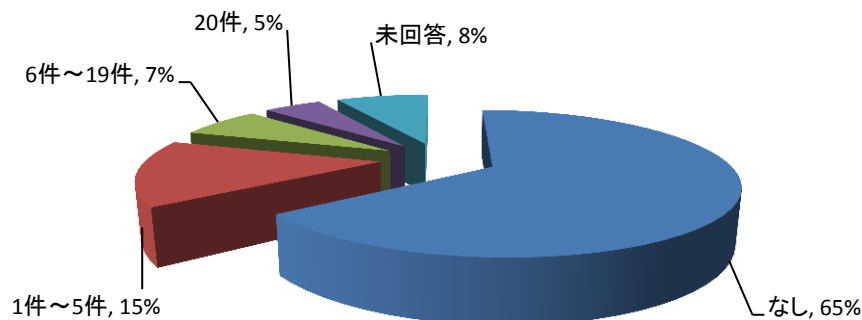
所在地については、「泉佐野市・田尻町」(35%)、「阪南市・岬町」(32%)、「泉南市」(17%)、「熊取町」(15%)であった。

10) 在宅診療の取り組みについて、お聞かせください。



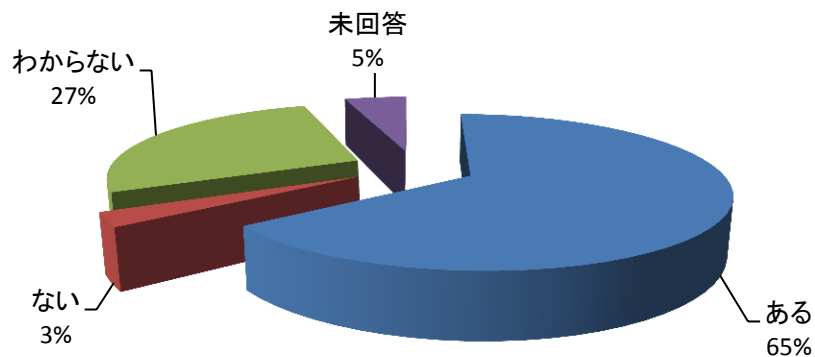
- ・「取り組んでいる」(28%)
→ 1週間のうちに50回行っている薬剤師もいれば月に1回程度の薬剤師もいる。
- ・「環境が整えば取り組む」(58%)
どのような環境が整えばいいですか(抜粋)
→ ・時間的制限。人員確保と医師、看護師との連携
・在宅ケアの適切な方法
・医療分業
・依頼があれば取り組みたい
・患者と医療側との信頼関係が築けていない(医療というよりサービスと捉えられてしまう)
- ・「取り組みたくない」(8%)
理由(抜粋)
→ ・人的問題

11) 在宅診療に関わっている件数を教えてください。(報酬に関わらず、月平均)



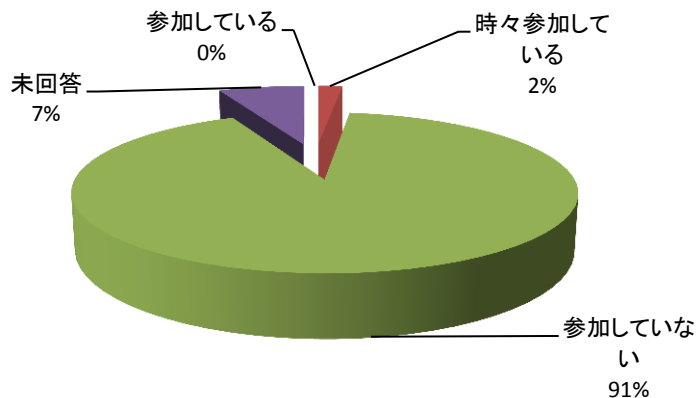
在宅に関わっている件数については、「なし」と答えている薬剤師は65%で、在宅に関わっている薬剤師は27%であった。

12) あなたは在宅診療に取り組む意欲はありますか。



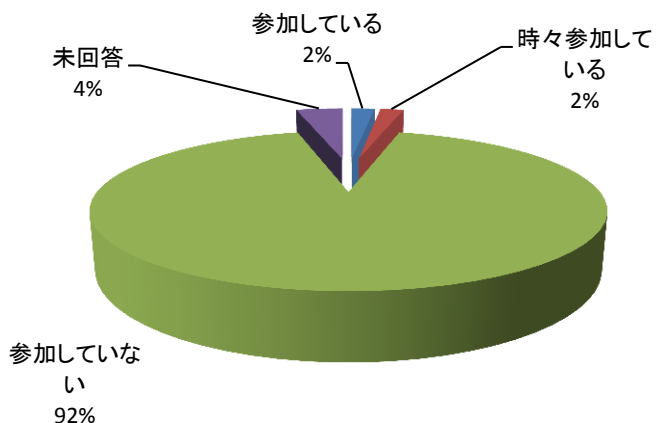
在宅診療に取り組む意欲について、「ある」と答えた薬剤師は「65%」で、「ない」とした薬剤師は「3%」であった

13) 病院が開催する退院する患者の退院前カンファレンスに参加していますか。



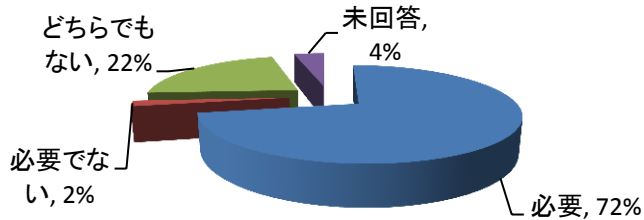
退院前カンファレンスには91%の薬剤師が「参加していない」と答えており、参加している薬剤師は、2%であった。参加できない場合の連携の取り方を医師会圏域で決めていく必要があると思われる。

14) ケアマネの開催するサービス担当者会議に参加していますか。



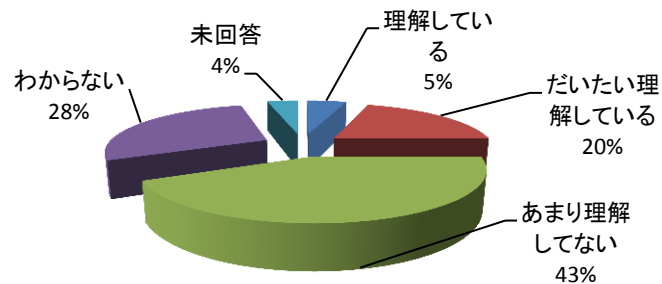
サービス担当者会議に「参加している」(2%)「時々参加している」(2%)と答えている薬剤師は、合わせて4%であった、また、92%の薬剤師が「参加していない」と答えており、参加できない場合の連携の取り方を医師会圏域で決めていく必要があると思われる。

15) 多職種と連携する場合、情報を共有するためのツール（連携シート等）が必要と思いますか。



連携シート等については、72%の薬剤師が「必要」と答えており、「必要でない」とした薬剤師は、2%であった。

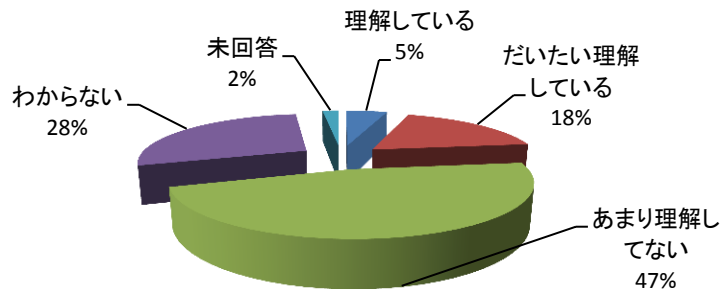
16) 地域包括支援センターの活動を理解していますか。



地域包括支援センターの活動を「理解している」(5%)、「だいたい理解している」(20%)で、合わせて25%の薬剤師が「地域包括支援センターの活動を理解している」と答えている。

また、「あまり理解していない」(43%)、「わからない」(28%)と、答えた薬剤師は、合わせて71%であった。

17) 地域包括ケアシステムについて理解していますか。



地域包括ケアシステムの理解については、「理解している」(5%)、「だいたい理解している」(18%)で、合わせて23%の薬剤師が「地域包括ケアシステムについて理解している」と答えている。

また、「あまり理解していない」(47%)、「わからない」(28%)と、答えた薬剤師は、合わせて75%であった。

18) 在宅診療に取り組んでいる方にお伺いします。多職種職種との連携において、うまく連携が図れた例、連携が図りにくかった例などを教えてください。

【うまく連携が図れた例】

- ・一人の患者について看護師、医師と共に話しができた時
- ・往診時に同行する。
- ・ケアマネより居宅サービスを使用している方の生活環境を教えていただき服薬指導に役立った。
- ・医師とは連携がとれるがケアマネとは連携がとれない。情報提供してもケアマネからのフィードバックがない。区変の時も連絡がない。
- ・ネットを通じて連携。
- ・担当医師が電話を携帯しているため、緊急時に迅速に対応できた。
- ・在宅を行っておられるDr.が行っている連携の会に参加させて頂き、患者様の状態や多職種の方々との情報交換が図れている事。

【連携が図りにくかった例】

- ・ケアマネに連絡しても情報がもらえない(個人情報を理由に)。
- ・患者が亡くなられた時、家族からはすぐに連絡がはいるがケアマネからはない。
- ・家族がなかなかおらず、ヘルパーとは連携を図れたが、他の職種の方が誰かわからなかった。
- ・薬剤師の在宅における役割がまだまだ多職種の方にも知って頂けていないので連絡を取りあうことがなかなかできなかつた事がある。

★ 他の職種に対してのご意見・ご要望（抜粋）

① 診療所医師に対して

- ・地域で率先して出前講座等を開き、啓蒙してほしい。
- ・患者様に対する服薬指導において処方意図を理解するため、一層の連携強化。
- ・診療内容や既往症、現在の疫病名など、毎月もしくは隔月でもいいので教えてもらいたい。
- ・主導権を握って他職種を引っ張ってほしい。
- ・在宅で療養を行っている患者様の処方箋において、ぜひ在宅患者訪問薬剤管理指導の指示を行ってください。
- ・薬剤師ももっと在宅医療に貢献したいので往診同行等にも積極的に参加させて欲しい。

② 歯科医師に対して

- ・薬剤師ももっと在宅医療に貢献したいので往診同行等にも積極的に参加させて欲しい。

③ 薬剤師に対して

- ・薬の専門家として在宅にもっと前向きになってほしい。
- ・在宅の詳しいやり方等を教えてほしい。

④ 病院地域連携室に対して

- ・積極的に患者さんがかかりつけ薬局を持てるように病院が処方方を公平に分配すべき。
- ・薬剤師へもっと情報提供して欲しい。

⑤ 介護支援専門員に対して

- ・薬や医療に関する知識が少し足りない様に感じる。理解のない事に関しては、医師又は薬剤師へと一度声をかけてほしい。
- ・市民の啓蒙。
- ・考え方を変える必要がある。
- ・お薬を代わりにとりにきてくれた場合、処方内容の変更を確認できない(とりにきただけ、という感じの方が...)。

⑥ 訪問看護ステーションに対して

- ・薬剤師との連携。
- ・医師、看護師、薬剤師の役割分担(実際の)を教えてください。
- ・患者が服薬しやすい方法があるならどんどん提案してほしい。

⑦ 地域包括支援センターに対して

- ・薬剤師としてどの様に協力できるか勉強会をしてほしい。
- ・薬剤師へもっと積極的に情報提供して欲しい。

⑧ 行政(市町及び保健所)に対して

- ・市民への啓蒙と各職種の要となってほしい。
- ・情報交換の場所を提供してほしい。
- ・公費負担の方に医療とサービスの違いをきっちり説明すべき。お薬や医療を無料で当たり前という意識を改善すべき。市民の税金という認識がかけている。